

宇多法皇像

59代目の宇多天皇は、ここでは僧侶として描かれている。片手に刀を持っている。僧侶が刀を持っているのは矛盾しているように感じられるかもしれないが、ここで宇多天皇が持っている刀は、武器ではなく宗教的な道具だ。不動の知恵の王であり、真言仏教の中心である不動明王が振るう刀と同じ種類のものだ。確かに鋭く見えるが、その主な機能は、肉ではなく、人を悟りから外し道を迷わす妄想を切ることにある。宇多天皇がこの刀を持っているということは、宇多天皇と不動明王を観賞者に比較させる効果があり、宇多天皇が仏教を真剣に信仰していたことを示す。宇多天皇の生きた時代の慣習通り、彼は天皇の地位から退位した後、仏道に入った。自身のたてた信仰の誓いに対して、退位した天皇たちは様々な度合いの熱心さを見せたが、宇多天皇は人生を通して信仰を続けた。彼は亡き父の願いで、888年に仁和寺を設立し、退位時にそこで誓いを立て、寺の最初の皇室の僧になった。